



記念植樹に参加した8組の新婚さん

結婚を祝って8組が桜の記念植樹

結婚記念植樹が4月21日、長者の原・結婚の森で行われました。



夫婦で協力して植樹

対象となったのは、平成29年度中に婚

姻届けを提出した、村内在住の32組の夫婦。記念植樹の当日には、希望した8組の新婚さんが参加しました。植樹には寒さに強いオオヤマザクラが用意され、夫婦で協力し合い行いました。

今回の植樹には、村議会議員など、およそ20人が参加。8組の新婚さんとともに桜の植樹に汗を流しました。

これにより、平成13年より毎年行われている記念植樹の桜は合計149本となりました。

消防団が春の教養訓練を実施

村消防団(林正明団長)は4月8日、春の教養訓練を総合運動公園多目的グラウンドで実施しました。

午前9時から開始された訓練には、団員およそ220人が参加。時折雪が舞う寒さの中、服装点検、部隊訓練や機械器具の点検、午後には分列行進やポンプ操法訓練などを行いました。団員らは利根沼田広域中央消防署員の指導のもと、動作について入念な指導を受けました。

また、今年4月から新たに入団した10



新入団員は基本動作を確認

人は、迅速・的確な部隊活動習得のため、敬礼や行進などの基本動作を中心に訓練を行いました。



一糸乱れぬ部隊訓練を披露する団員

ふるさと大使の

荒井さんが寄附

ふるさと大使の荒井宏二さん(東京都板橋区)が4月12日、村に多額の寄附をされました。

この寄附は、戦時中に東京都板橋区志村第5小学校の児童が川龍寺に疎開していた縁と、荒井さんが同小学校のPTA会長在任時から続く村との交流を大切にされ、村の子どもたちのために役立ててほしいとの思いから寄せられたものです。荒井さんは「これまでの縁を今後も大切にしていきたい」と語りました。ご厚意に心より感謝いたします。



寄附をされた荒井宏二さん

67人が新しい学校生活をスタート

村内各小中学校では4月9日、入学式が行われ学校生活がスタートしました。昭和中学校では、午前10時から式が行われ、初々しい表情の新入生54人が、2・



誓いの言葉を述べる鈴木君(昭和中)



式を終えた新入生(大河原小)

3年生の拍手で迎えられました。

誓いの言葉では、新入生を代表して鈴木翔也君が「今までと違った学校生活に期待と不安でいっぱいです。54名全員で力を合わせ、お互いに励まし合い、何事にも精一杯頑張っていきたいと思います」と決意を述べました。

午後には、各小学校で合わせて67人の新1年生が入学式に臨みました。

大河原小学校では、15名の児童が入学。これから始まる学校生活に胸をおどらせていました。

横浜との交流の桜

花開く

昭和村と横浜市の友好交流協定締結から5年目を迎えた記念として、昨年10月1日の「昭和の秋まつり」の際に横浜市から贈られ、総合福祉センター「昭和の湯」の前に植樹された2本のヨコハマヒザクラが、4月上旬に美しい花を咲かせました。

このヨコハマヒザクラは、数ある桜の品種の中でも、唯一「横浜」の名を冠し、鮮やかな紅色が特徴です。植樹から半年で早くも花開き、訪れた人たちの目を楽しませていました。



地域おこし協力隊の伊藤眞作さん

地域おこし協力隊に伊藤さん

伊藤眞作さんが4月8日、本村初の「地域おこし協力隊」に着任しました。

この「地域おこし協力隊」は、人口減少や高齢化が進む地方が都会から若者を呼び込み、定住・定着の支援をしながら地域の活性化に貢献してもらうために国が創設した制度です。

村でも平成29年度にこの制度を導入し、今年4月からの活動に向けて隊員の募集を行っていました。隊員の任期は、最長3年あり、この3年間の間に地域の皆さんと協力隊員が、共に地域づくりに取り

組むこととなります。

伊藤さんは、神奈川県藤沢市から村に移住し、道の駅「あぐりーむ昭和」の企画・運営業務や名物料理の開発などに携わっており、「これまで多くの観光地を巡り、また、取り組んできた仕事を活かし、昭和村のためにやって行ければ。今はまだ仕事が始まったばかりで慣れないことが多いが楽しい。しっかりと頑張っていきたい」と抱負を語りました。村では、引き続き2名の協力隊員を募集しています。



鮮やかに花開いたヨコハマヒザクラ